

警 告 !



- カバーを閉める前に、Oリングが所定の位置にセットされていることをご確認ください。
- アクチュエータの取付け及び保守は、十分な知識と技術を持った人により行ってください。
- アクチュエータの手動装置には工具を利用して回す力を増やすことは強く禁止されています。アクチュエータやバルブの故障原因となります。

注意事項

1. 取付け前に取扱説明書とカバー内側の結線図をよくお読みください。
2. 配線前に供給電圧が製品ラベルに表示された電圧と一致することをご確認ください。
3. 危険防止のため、配線や点検前に必ず電源を切ってください。
4. アース線を必ずアクチュエータ内部の PE ネジに接続してください。
5. アクチュエータ内部にある基板が静電気により故障する恐れがありますので、素手や金属工具で基板を触れないようにしてください。
6. 2 台以上のアクチュエータを並列接続して同時に操作するような結線をしないで、1 台ずつ開閉スイッチやリレーを設けてください。
7. 配線口サイズ、ケーブル外径及び IP 防水等級に適合するケーブルグランドをご使用ください。配線終了後、ケーブルグランドをケーブルに密着するようしっかりと締め付け、そしてカバーと配線口を密封してください。ほこり、雨水の浸入を防ぐため、使用しない配線口でも付属の黒い防水プラグで締め付けてください。また配線口の赤い防塵プラグは輸送期間にしか適用されませんので、長期保管の場合は防水等級のあるプラグをご使用ください。
8. 電動バルブの取付姿勢について、アクチュエータ配線口を上向きにならないよう、0° ~ 180° 水平以上の間に取付けてください。
9. 非防爆タイプの製品なので、引火、爆発性ガス・粉じんのある危険エリア、及び真空環境での設置はできません。
10. ほこりがアクチュエータにたまないように定期に清掃を行い、清潔に保ってください。
11. 製品の廃棄処理については所在地の廃棄物処理法や清掃に関する法律に従い、行ってください。
12. 製品が低温環境に設置され、起動頻度に従って操作しない場合、初期動作時の起動時間が遅れます。

取り付けのご注意

1. 安全率を掛けたバルブのトルク値がアクチュエータの最大トルク値以下であることをご確認ください。
(推奨安全率: 1.3)

125Aバルブのトルク値が80N·mの場合→ $80 \times 1.3 = 104$ Nm
104 Nm < 150 Nm (OM-3) → 取付け可能
 104 Nm > 90 Nm (OM-2) → 取付け不可

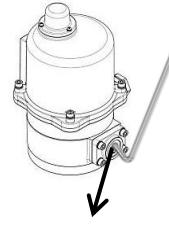
2. バルブの弁棒寸法及び取付フランジがアクチュエータのと一致していることをご確認ください。一致しない場合、アダプターやブラケットを利用して取付けてください。

手動装置の取付け

- OM-1, OM-AM



手動装置



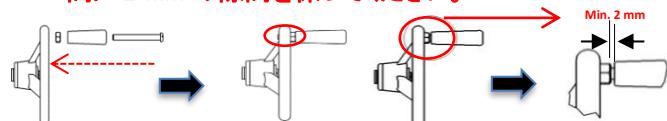
手動装置

手動操作工具:
スパナ(8 mm)
最大許容トルク: 5 Nm

手動操作工具:
六角レンチ(5 mm)
最大許容トルク: 5 Nm

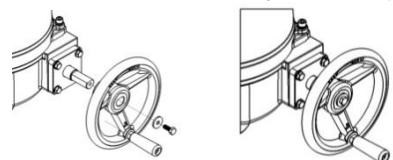
- OM-2 ~ OM-9, OM-H

1. ボルトをグリップとナットに通し、ハンドホイールに取り付けてください。
△ きつめ過ぎないでください。
2. ナットをハンドホイール側にタッピングして締め付けてください。
△ スムーズに作動できるようにするために、ナットとグリップの間に 2 mm の隙間を保ってください。



3. ハンドホイールをアクチュエータの手動軸に挿入してから、ボルトをワッシャーに通し手動軸に固定してください。(左図)
△ ハンドホイールの取付はアクチュエータの停止状態時に行ってください。

4. 取付完成。(右図)



取り付け手順

1. 取付け前に、アクチュエータとバルブの開度位置(全開や全閉)が一致していることをご確認ください。一致しない場合、アクチュエータの手動装置によりアクチュエータの開度位置を変えてください。(例: バルブが全開位置で、アクチュエータも全開位置にしてください。)
2. アダプターやブラケットをバルブに取り付け、弁棒をアクチュエータの出力軸に差し込み、ボルトでアクチュエータとバルブをしっかりと固定してください。

△ 事前にバルブの手動装置を取り外してください。

3. 取付けた後、アクチュエータとバルブの開度位置が一致であることをもう一度ご確認ください。
4. 気密状態を解除するため、配線口にあるプラグを外してからアクチュエータカバーを取り外してください。

△ 電源を切った状態であることをご確認ください。

5. 配線前に取扱説明書 5.4 (P.8) の内容をご確認上、カバー内側の配線図をご参照しながら配線作業を行ってください。

△ 三相電源のアクチュエータを試運転前に、必ず手動操作にてアクチュエータを中間位置まで動かしてください。通電後、アクチュエータが反対側へ運転すれば、U・V・W のいずれか 2 つの配線を交換してください。

6. 電源を入れてください。

△ 感電の恐れがありますので、注意を払って作業を行ってください。

7. アクチュエータの全開/全閉位置が再調整必要かを確認するため試運転を行ってください。再調整が必要の場合、「機械的ストップとカムの調整」をご参照ください。

8. 調整完了後、アクチュエータカバーを閉め、ボルトを確実に締め付けてください。

△ カバーを閉める前に、Oリングが所定の位置にセットされていることをご確認ください。

機械的ストップーとカムの調整

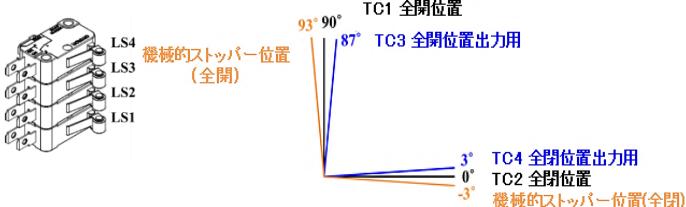
- ギア機構の故障を避けるため、調整前に電源を切ってください。
- 電動操作中に機械的ストップーを調整しないでください。
- すべての調整と試運転は通常操作前に済ませてください。

ご調整前に - 全開/全閉リミットスイッチ

- 標準仕様ではリミットスイッチが 2 つ(LS1 と LS2)、そしてカムが 2 つ(TC1 と TC2)装備されております。そして全開と全閉位置に到達したことを外部に出力するための補助無電圧接点(LS3 と LS4)をオプションとして追加可能です。

LS1, LS2: モータを停止させ、全開と全閉位置のストローク範囲を調整するものです。LS1 は開側、LS2 は閉側に使用されております。

LS3, LS4(オプション): 全開と全閉位置に到達したことを外部に出力するための補助無電圧接点です。LS3 は開側、LS4 は閉側に使用されております。



補助リミットスイッチ接点展開図

- 無電圧の補助リミットスイッチ(LS3 と LS4)の出力状態について、下記の展開図をご参照ください。
 - 実線(—): 接点 ON 状態
 - 破線(- - -): 接点 OFF 状態

【OM-1, OM-A, OM-AM】

スイッチ	端子番号	開度位置	
		100%	0%
LS4 (無電圧)	A - F	---	- - -
	A - E	- - -	---
LS3 (無電圧)	A - C	---	---
	A - B	- - -	---

【OM-2 ~ OM-9, OM-H】

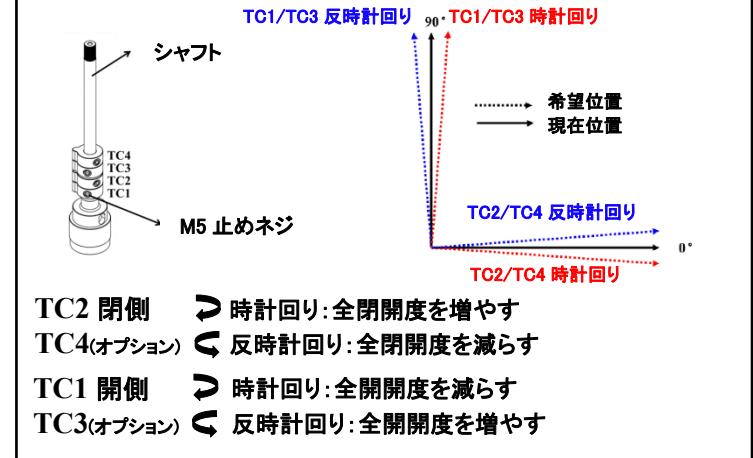
スイッチ	端子番号	開度位置	
		100%	0%
LS4 (無電圧)	D - F	- - -	---
	D - E	---	---
LS3 (無電圧)	A - C	---	---
	A - B	- - -	---

調整手順

- 電源を切ってください。
- ナットを緩め、開側と閉側の機械的ストップーを 7 回転緩めてください。
- 下図を参照しながら、全開位置と全閉位置のカム(TC)を調整してください。

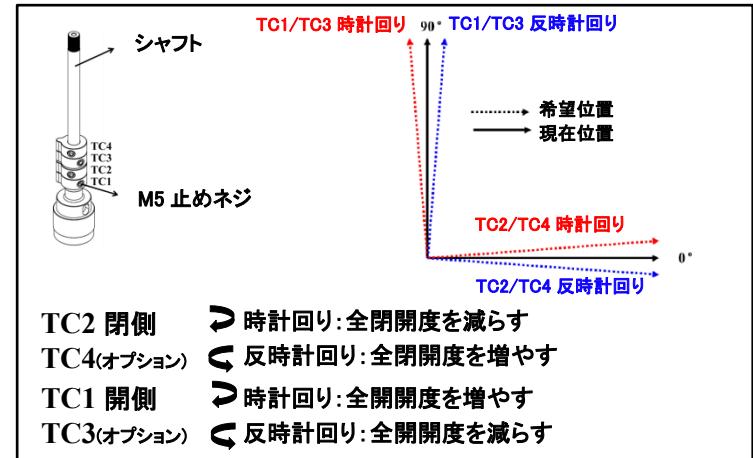
【OM-A, OM-AM】

工具: 六角レンチ (2.5 mm)



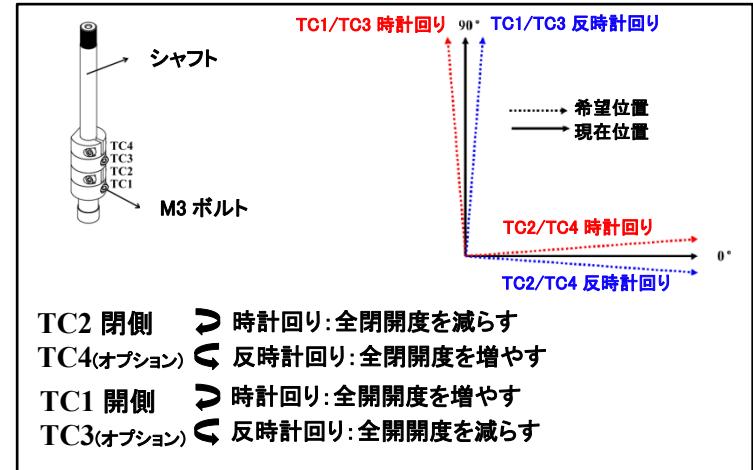
【OM-1】

工具: 六角レンチ (2.5 mm)



【OM-2 ~ OM-9, OM-H】

工具: 六角レンチ (2.5 mm)



4. 電源を入れてアクチュエータを全開位置まで動かし、開側の機械的ストッパー(左側)を突き当たるまで締めて、その位置から1/2～1回転戻してください。

各型式の戻し回転数は下記をご参照ください。

- OM-2～OM-6, OM-H : 1 回転
- OM-7～OM-8 : 3/4 回転
- OM-9 : 1/2 回転

5. 機械的ストッパーのナットを締め付けてください。

(最大締付トルク: 5.88 Nm)

6. 電動操作でアクチュエータを全閉位置まで動かし、閉側機械的ストッパー(右側)を突き当たるまで締めて、その位置から1/2～1回転戻してください。

各型式の戻し回転数は下記をご参照ください。

- OM-2～OM-6, OM-H : 1 回転
- OM-7～OM-8 : 3/4 回転
- OM-9 : 1/2 回転

7. 機械的ストッパーのナットを締め付けてください。

(最大締付トルク: 5.88 Nm)

8. 全開/全閉位置が正しいか電動操作でもう一度ご確認ください。

9. 調整完成。